



MUSASHINO Vol. 135 for TOMORROW



巻頭 特別対談

芸術の生命と伝承

坂東玉三郎 (歌舞伎役者・本学特別招聘教授)
福井直昭 (武蔵野音楽大学学長)

海外音楽事情

コロナ禍の世界と音楽家

レイ・E. クレーマー (本学名誉教授)
ルドルフ・ピールマイヤー (指揮者)
眞塩 直 (本学卒業生/テノール/ミラノ・スカラ座合唱団員)
後藤博亮 (本学卒業生/チェコ国立ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団)



特別対談

歌舞伎役者・本学特別招聘教授

坂東玉三郎

武蔵野音楽大学学長

福井直昭

伝統芸能としての 歌舞伎

今年度より本学の特別招聘教授に就任した歌舞伎界の至宝 坂東玉三郎先生と、本学学長 福井直昭教授による対談が実現しました。現代歌舞伎を代表する女形であり人間国宝としても認定されている先生は、11月5日と12日、武蔵野の学生に向けて「1%のひらめきと99%の努力」と題する特別講座を開いてくださいます。多彩な分野の世界的アーティスト達とのコラボレーションを展開している玉三郎先生と、幅広い分野に造詣が深い福井学長。お二人が、歌舞伎・音楽を中心とした芸術にまつわる興味深いお話を披露してくださいました。

(2020年3月24日実施)

福井 本年、生誕250周年を迎えたベートーヴェンは、「芸術は長く、生命は短いというが、長いのは生命だけで、芸術は短い」という言葉を残したと言われていました。生み出された芸術作品が輝いている期間は、実はそれほど長くないという意味で発せられたこの言葉は、数百年前の名曲が消えることなく輝き続けている現代においては、「素晴らしい芸術は永遠に語り継がれるものであるが、その奇跡の恩恵にあずかれる芸術は少ない」と解釈することもできます。そこで、玉三郎先生には日本の伝統芸能の伝承についてのお考えをお聞かせ願いたいのですが、以前先生は、

「日本の芸能は、非常に削ぎ落とされた端正なものである。歌舞伎なり能なり、日本ほど口伝えで人間同士が引き継いできた国は珍しい」と、ご発言されています。

玉三郎 そうですね。西洋音楽にとって、その解釈はそれぞれの時代の、それぞれの演奏家によるとはいえ、譜面が残っていたことが伝承という観点から言うと、とても良かったのではないのでしょうか。その点、歌舞伎は、江戸時代の初期に民衆の中から生まれたものが明治には天覧になり、伝統芸能となっていくのですが、書き伝えられたものはあったものの、譜面のようにしっかりとした形では残っておらず、どこか曖昧なところがあります。伝わり方が口伝えであった分、難しい部分があった。その過

程において、変わっていってしまうわけですね。

福井 前々号でお話を伺った落語の桂文治師匠も、落語について同じことをおっしゃっていました。

玉三郎 歌舞伎は、その時点時点で、「付け加え」たり「削ぎ落とし」たりして、境目で揺れながら作られてきました。したがって、そういった伝統を役者がどう捉えるかが重要、ということになります。長い時代の中で、必要なものが付け加えられ、要らないと思ったものが省かれてきたという点では良いのですが、しかし一方でいわゆる「形骸化」を引き起こす恐れが生じます。

福井 役の性根を表現せずに硬直化し、文字通り形ばかりのものになってしまう危険があると。

玉三郎 そうです。したがって、自分自身が形骸化しているか否か、その判断を役者がしっかりした上で演じることが、とても大切です。また、それさえしっかりしていれば、やはり長い歴史を持つ演目の方が皆さん

に受け入れられやすいでしょう。長いことやってきた中で、皆さんの共感を得られないものは、消滅していったわけですから。音楽が歴史上で、良いものだけが残ってきたことと同じことです。

福井 長い時をかけ、演出や演技の流れも伝承されて磨き上げられた古典の演目。それらの「形骸化していない」継承こそが、古典芸能としての歌舞伎の根幹ということですね。

「継承」と「創造」

福井 一方で、玉三郎先生は「現代のお客様に、伝統芸能としての純粋なままの歌舞伎をお見せすることに難しさを感じる」とおっしゃっています。

玉三郎 はい。しかし、いまのお客様に来ていただかないと成立しないものだと思います。いまお客様に喜んでいただけなかったら、私たちの芸術、舞台は時間を越せないんです。

福井 私が昨年末鑑賞した新作歌舞伎『風の谷のナウシカ』も、そういう視点に立ったもの、つまり時代に即した新しい世界の創造ですね。

玉三郎 そうです。ナウシカのファンの方たちを呼び入れるという点においては、貴重な試みだと思います。実際、歌舞伎自体がそうやって出来てきたのですから。歌舞伎は、出雲阿国いずものおくに（注：安土桃山時代から江戸時代に活躍した女性芸能者）から始まったと言われています。

福井 出雲阿国が歌舞伎の原点とさ



▲「アクセス=キム=マ・トリオ」としても活躍した、エマニュエル・アクセス氏、ヤンウク・キム氏、ヨーヨー・マ氏（写真右より）と

れる「歌舞伎踊り」を初めて演じたのが、いまから400年以上前の1603年。西洋音楽で言えば、ルネサンス期の終わりから、次のバロック期への過渡期にあたる考えると、歌舞伎の有する歴史性を実感します。

玉三郎 阿国も念仏を唱えて踊るところから始まり、お客様の支持を得て、そこで自分が作りたいもの、したいことをやりだしたのでしょう。皆さんに目を向けていただき、足を運んでいただき、その力を借りて自分の目指すところに進んでいったということだと思います。

福井 「創造をし続けることも歌舞伎の伝統」と聞いたことがあります。優れた新作は再演を重ねて練り上げられ、やがて新たな古典となって、次世代へ継承されるのですね。「継承」と「創造」は、一見相反するようですが、歌舞伎の発展に欠かせない両輪なのでしょう。

小さな機械の問題点

福井 いまの話に関連するかもしれませんが、クラシック音楽界にも、客層が高齢者に偏っているという危機



▲往年の名指揮者、カルロス・クライバー氏と



感があります。若者離れの状態が続くと、音楽家を志す人間も増えない。それだけでなく現代には娯楽があふれています。そうした中で、音楽や舞台といった、時と場所を限定した瞬間芸術というものが、今後どのようにになっていくとお考えでしょうか。

玉三郎 難しいですね。一番問題なのは、昨今はスマートフォンなどの「小さな機械」で聴いて良しとしてしまうこと。小さな機械で聴いて、それで本物を体験したと誤解してしまうことです。本物のコンサートホールで聴いたような気になってしまう、その勘違いが一番難しいところですね。

福井 音大生も、玉石混交ともいえるYouTubeなどで聴くことが多く、もうCDはあまり聴かないですね。そのCDすら、生音ではないのですが。なかなか演奏会まではたどり着きにくい。だからこそ、大学の先生の指導が重要になると思います。

玉三郎 生の音、実音にどれだけ触れるかということですね。実音ではないものを聴いて、実音はどういうものか興味を抱くきっかけになっていただければ良いのですが、そこがつかないというのが問題点だと思います。ただ一方で、パソコンであったり、スマホであったりというものが“飽和状態”になって、近年は実音を志向する若者が少しずつ増えてきているような気もしています。

そうした人たちがいる限り、自分を見失わずにしっかりやっていけばこちらに目を向けてくれるし、耳を傾けてくれるのではないのでしょうか。実際、歌舞伎界でも、能楽界でも、落語界でも、クラシック音楽界でも、若者を取り込もうということは、最初からやっていたと思うんです。

福井 その時代、時代で、そういった試行錯誤が重ねられてきたのでしょうか。

玉三郎 ただ、若者だけに分かってもらうのではなく、究極は万人に分かってもらうことを目指すべき。誰に向かって作るのか、どの世代に向かって作っていくのかというのは、あまり考えない方がいいと思います。例えば雑誌の場合は、今どういう層に読まれているのかを聞いて、じゃあその年代に向けて発信しましょう、というのはあるでしょう。でも自分の芸術作品を、ある世代に合わせるなんてことは出来ないと思うんです。

福井 おっしゃる通りです。ただただ、真理を追求するということですね。何かの本で読んだのですが、玉三郎先生はいわゆる「上下関係」というものがあまりお好きではない。上の人に言われたからではなく、誰に言われたかが大事だと。

玉三郎 そう思います。ただ、上下関係での礼儀作法は当然あります。人間が生まれて成長して、年寄りになっていく中での上下関係というも

のは無視できないものなんだと思います。けれど、ものを作るという上での真髓、本当の魂、力というものは、上下、前後、左右では考えられない。

福井 それはスポーツでも何でも同じですね。日常の礼儀はあるけれど、いざ試合が始まったり、幕が開けば、そんなことは関係ないと。遠慮などしてられない。

玉三郎 本当の自分の芸術的精神というものは、(上下などの)位置ではないです。

福井 作曲家だって、先輩に遠慮して曲を書くわけでもないでしょう(笑)。

玉三郎 そういう人もいたでしょうが(笑)。でも、彼らがどの世代に向かって曲を作ったなんてことはないでしょう。

福井 だからこそ、それらの音楽がもつ普遍性が存在するのだと思います。ただ、作曲家たちが、偉大なる先人たちの作品を大いに分析したことは間違いありません。

玉三郎 それはそうでしょうね。



▲ 第11回ショパン国際ピアノコンクールの覇者でもあるピアニストのスタニスラフ・ブーニン氏と

福井 登場人物の悲しみや喜びを共にし、時代を経ても変わらない人間の姿に感動する——これこそが優れた歌舞伎作品に触れる醍醐味であり、傑作と呼ばれる音楽作品を聴いたときに感じる幸福感と同様なのでしょう。

魂を伝える 技術としての「型」

福井 さて、私の教え子の中にも歌舞伎が好きで学生がけっこういるのですが、彼らは歌舞伎に厳然と存在する「型」について非常に興味があるようなんです。玉三郎先生は、次のようにおっしゃっています。「型破りな演技は型を知らずには出来ない。知らずにやれば、ただの型なすだ。歌舞伎の場合、こういった役割にしたらいいかも大切だけれども、やはり伝承とか型も大事だ」と。

玉三郎 私が「型」というものを形容するとしたら、言葉と同じだということ。ちゃんとした発音が出来なければ、相手に聞こえないじゃないですか。ですから、作品の魂は別として、作品を伝える技術としての「型」は必要なんです。でも、単なる技術としての「型」だけでは駄目で、魂なり、思いというものを他人に伝えるための手立てとしての技術、そこに「型」があるんです。例えば英語で魂と言ったとき、soulという舌の動き、発音の仕方が「型」ですよ。本来、魂は無言で理解するものなんだけれども、英語で伝える場合はsoulという「型」、つまり発音で伝えなければあちらの人には伝わらない。ですから思いの次に、伝える手立てとしてあるのが「型」だと思います。

福井 だからこそ「型」は、磨き上げてきた先人たちの心・精神までを受け継いだ上で、役の性根を掴むことが肝要なのですね。「型」の意味や意義

を拝聴できました。

見聞を 広めることの意味

福井 本学の教育方針でもある「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」にも関わる話ですが、音楽を学ぶ者は、作品の背後にある時代背景について、また、絵画や彫刻などの芸術や文学、宗教など音楽に関わりのある分野について、しっかり勉強する必要があります。しかし誤解を恐れずに言うと、私はバックグラウンドを勉強したからといって、曲の解釈が急激・劇的に変わることはないとも思っています。大学であれば、先生の教え方・解釈の方が遥かに影響力があるでしょう。同様に、ある演奏家が、「バレエを観たり、絵画を観たり、通りにいるホームレスを見ることさえ、演奏に役立つんだ」と言っていますが、これらも即時的な話ではありません。ただ、それらの様々な体験から長い時間を経て培われた感性といったものは、絶対に演奏に役立つと思っています。

玉三郎 いまのお話の関連でいえば、江戸時代の琳派の絵の収集家に話を聞いたことがあるのですが、彼は「美術というのは比較論だ」と言うんですね。びっくりしました。普通、美術は「感じるもの」だと思っているじゃないですか。しかし、それを比較論だと。感じるものではあるけれども、比較論として沢山観ることが大切だと。自分が観た絵が、どこの方角を向き、どこにいるのか、そして自分の位置を確かめるためには、多くのものを観て比較し、自分が何を感じたか確認しないとイケない。同じ意味で言えば、音楽も色々

なものを聴かないとイケない。そして先ほど福井先生がおっしゃったように、バレエを観たり、絵画を観たり、平たい言葉だけれども、見聞を広めるということに尽きるのではないのでしょうか。

福井 私も、見聞を広め、色々な人と話をして、人間としての引き出しを多くする。それが演奏に役立つ、役立たないは別として、大人としての教養を高めていくことが必要だと考えます。

また、音楽は人間のうちにおいて生まれ、その人の演奏や作品には、自ずとその人の人間性、人格や個性が表れるものでありますから、その音楽が持つ内面の喜怒哀楽の心に共鳴できる鋭い感覚を磨かなければなりません。鋭い感性を磨き、自分自身の中に浮かぶ心情や考え、自分の個性や独創性を的確に表現する努力があってはじめて、そこに芸術が生まれるのだと思います。もちろん、先ず規則的な厳しい練習により、優れた技術を身につけなければならないことは言うまでもありませんが、

玉三郎 学校では、伝える型を学ぶ、或いは歴史を学ぶ。でも「感じる」ということに関して言えば、子どもの頃から大人になるまでに、その人の中に自然と生じていくものですから、そこを先生たちが動かすことは難し





い。先生や先輩は、その人なりの持つ魂をよく引き出してあげることが役割であり、それに対する目や感覚を持っていることが求められます。そこさえ見極められたら、技術はそんなに難しい問題ではありません。練習すればいいわけですから。ただ、素晴らしいものを持っていても、世の中に理解されずに終わってしまう人がいます。学校の役目としては、それを引き出してあげることが一番大事であり、練習は二義的なものかもしれません。

ただ、先ほどお話しした「型」を習得するのは、苦痛を伴うものなのです。でも、その苦痛を超えないと、その先の「型」から外れることも出来ないですね。嫌なことをする時間、いわば苦行的な時間を過ごすことが今の時代は非常に少なく、そういう意味では「型」を習得させづらい時代だと言えます。

福井 血の滲むような努力をして辿り着いた「型」、その先にこそ、新しい「型」が生まれるのですね。私自身に対してでもですが、学生によく言うのは、「言い訳の材料を排除し、毎日練習しなければいけない」と。その一方、いくら練習を積んでも舞台やステージで失敗することがあります。瞬間芸術ですから、失敗しても消しゴムで消すことはできない。皆、すごく悔しい思いをするわけです。頑張った人ほど、その悔しさは大き

いはず。でも私は、そうした悔しさは味わった方がいいと思うんです。ある人が、人生の本当の楽しみは「喜怒哀楽の総量」だと言っているように、喜と楽だけでは人生は味気なく、怒ったり、哀しんだりして初めて人生は豊かなものになるのではないのでしょうか。本当に頑張った挙げ句の失敗は糧になり、人に深みをもたらすに違いありません。玉三郎先生も長年にわたる舞台人生の中で、失礼ながら、失敗したり、緊張したりすることがあったと思いますが…。

玉三郎 私はけっこう緊張するほうなんですよ(笑)。

福井 努力してきたから、逆に緊張するということがありますよね。私は、頑張っているからこそ緊張する、そしてそれを味わうために努力するんだよと説いています。

玉三郎 緊張感のない人生は、つまらないかもしれないですね。その緊張を制御するのは、練習であり、経験である。でも、緊張しないと成長しないとされますから。一流の音楽家でも歌い手でも、きっと皆さん緊張していると思います。

福井 「喜怒哀楽」を感じる大切さに関しては、いかがでしょう。

玉三郎 モーツァルトにしても、ラヴェルにしても、その作品は人生の苦しさ、生きていることへの矛盾や疑問から出てきているものだと思います。どこの時点の、どの場所の、どういう種類のものかは分かりませんが、やはり挫折とまでは言わなくても、こうして生きていいのだろうかという深い思い・疑問がなければ、作品を作る意味はないんじゃないかと思います。

自然の美と芸術

福井 昨年、先生が世界文化賞を受賞した際に、「美しさだけを追い求め



てきたわけではない。演劇の根本でもある美と醜、善と悪、そうしたものが複雑に絡み合っている役にやり甲斐を感じます」と発言されました。音楽芸術も美だけではなく、リアリティーを求めるなど、色々なものを表現しないといけない。

玉三郎 もちろんです。しかし「美であるか」どうかは別にして、音楽にはカタルシス(心の浄化)があった方がいいですね。それが無いものは、私は聴きたくないです。

福井 それは私もそうです。既に古代ギリシャ時代から、アリストテレス等の賢人が音楽の中に聴く人の魂を動かす「カタルシス」の作用を見ていました。心が洗われる、魂が清められる、清々しい気分になる——カタルシスの喚起は音楽のもつ重要な効果ですね。

さて、「美」といえば、ドビュッシーが「芸術はすべての《つくりごと》のなかで最も美しい《つくりごと》だ」という言葉を残しています。これについてはどう思われますか。

玉三郎 ドビュッシーがどこで、どういう思いで言ったのか分かりませんが、もしかしたら自分が「一番美しいものを作りたい」という意味なのかもしれません。この世の中にある音を集めて、バランスのとれた美しいハーモニーを作りたい、という思いからの発言なのかもしれません。

福井 語源も含めた「アート」という言葉の意味や、「美しい」の捉え方に

もよりますね。

玉三郎 そうですね。もしかしたら、まったく作為のない世に咲く花が一番美しいかもしれないし、空を飛ぶ鳥が一番美しいかもしれない。ひょっとしたら、自然の花や鳥より美しいものはないから、芸術とは、それらを超越する美しいものを作りたいという人間の欲望かもしれないですね。

福井 玉三郎先生はスキューバダイビングもなさっていますし、自然を愛する気持ちもお強いのではないのでしょうか。

玉三郎 夕陽の一番美しいものは、どんな作品より美しいかもしれません。それに憧れて作品を作るということはあり得るので、少なくとも作ったものがこの世で一番美しいとは言いきれない。

福井 だからこそドビュッシーは「すべての《つくりごと》のなかで」という断りを入れたのだと思います。同様に私の好きな言葉で言えば、20世紀最大のピアニストの一人A・ルービンシュタインが残したものが残ります。それは、「私は生きることに夢中だ。人生の変化、色、様々な動きを愛している。話ができること、見えること、音が聞こえること、歩ける

こと、音楽や絵画を楽しめること、それは全くの奇跡だ」というもの。いま我々はコロナ渦の中、大変な時代を迎えています。人間と自然の関わりはどうあるべきだとお考えですか。

玉三郎 自然というのは、どんなに人間が破壊しようと思っても、ちゃんとバランスを取っています。例えば気候変動が起こっても、それに対応しているのが大自然、大宇宙だと思います。人間も自然のひとつだとすれば、自然に生まれてきて、自然に滅んでいくんでしょうね。

福井 人間も自然の一部だと。

玉三郎 モーツァルトを始め、素晴らしい音楽家や彫刻家、画家などは、宇宙からの波、その波のさなかに生まれた人だと思えます。その波をもらっている人たちが、心のままに、或いは夢中で作ったものは、自然の美によく似ています。だから、そうした人たちはある一点では作曲家と呼ばれているけれども、実は宇宙から人間にもたらす美を表現する過程の人、つまりその仲介人であると思



▲本年2月に逝去されたイタリアのオペラ歌手(ソプラノ)ミレラ・フレエ二氏と

います。

福井 天才と呼ばれる大作曲家たちの存在、美質を表した、素敵なお話です。最後に、この号が出たあとに武蔵野で開いていただく、「1%のひらめきと99%の努力」と題する講座に対する抱負をお聞かせください。

玉三郎 どんな講座になるか分かりませんが、楽しく話し合いながら、学生の皆さんそれぞれが持っているものが十分に発揮できる時間にしたいと思います。

福井 本日は、歌舞伎と音楽を中心とした芸術論が展開でき、とても有意義な対談となりました。素敵な時間を、ありがとうございました。講座を楽しみにしております。



坂東玉三郎 *Tamasaburo Bando*

1957年12月東横ホール『寺子屋』の小太郎で坂東喜の字を名のり初舞台。1964年6月、十四代目守田勘弥の養子となり、歌舞伎座『心中刃は氷の朔日』のおたま他で五代目坂東玉三郎を襲名。泉鏡花の唯美的な世界の舞台化にも意欲的で、代表作の『天守物語』をはじめ数々の優れた舞台を創りあげてきた。また歌舞伎の枠を超えて、世界の芸術家まで大きな影響を与え、賞賛を得てきた。若くしてニューヨークのメトロポリタン歌劇場に招聘されて『鶯娘』を踊って絶賛されたのははじめ、アンジェイ・ワイダやダニエル・シュミット、ヨーヨー・マなど世界の超一流の芸術家たちと多彩なコラボレーションを展開し、国際的に活躍。映画監督としても独自の映像美を創造。2012年9月に、歌舞伎女方として5人目となる重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。2013年、フランス芸術文化勲章最高章「コマンドゥール」受章。2019年、高松宮殿下記念世界文化賞受賞。

コロナ禍の世界と音楽家

2020年、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、音楽界も大きなダメージを受けました。世界中で数え切れないコンサートが中止になり、学校の授業が制限されるなど、演奏活動、教育現場において苦しい状態が続いています。現在、音楽家がどのような状況にあり、どのように感じているのか？教育の現場はどうなっているのか？本学とゆかりのある海外在住の4名の方々に、それぞれの国の現状をお伺いしました。



アメリカにおける COVID-19の音楽教育への影響

レイ・E. クレーマー
(ウィンドアンサンブル指揮者／本学名誉教授)

新型コロナウイルスは、アメリカのすべての音楽家にとって困難な状況を作り続けています。コロラド州を始めほとんどの州ではバンドや合唱のアンサンブルは許可されず、小編成の弦楽アンサンブルのみ、マスクを着けソーシャルディスタンスを保てば演奏することができます。こうした中、指導者からは、カバー内に細菌を閉じ込める金管楽器用のベルカバー、クラリネットやフルートに被せる孔を開けたスリーブ、演奏者の周りに設置するシールドなどの使用等、感染予防策のいくつかの案が出されました。

対面指導ができない場合は、学生とはオンラインで繋がっています。中でも注目されているのが、指導者たちが演奏の課題を作成し学生の進捗状況を確認できる「スマート



▲本学ウィンドアンサンブルの米国演奏旅行で、参加した学生と一緒に写真におさまるクレーマー先生(2018年12月)

ミュージック」のような音楽プログラムです。

私も生徒たちがこの状況下で音楽活動を続け、音楽に関心を持ち続けられるアイデアを高校の指導者たちに提案しました。その一部を紹介します。

●大編成のメンバーを小編成のアンサンブルに振り分ける——こうすればWeb会議ツール「Zoom」を利用して指導ができます。

●他のアンサンブルの録音を送り、生徒に審査員になってもらって演奏について講評させる——これは生徒が良い聴き手となる手助けになります。

●バンドの歴史について指導する——普段はなかなか時間が取れませんが、今なら十分に時間があります。

たとえそれがオンラインでも、小規模のアンサンブルであっても、演奏を続け、一緒に音楽を作ることの喜びを生徒に感じてもらうことが大切です。

私自身は、若い音楽家たちを指揮する機会がないのが寂しいです。2020年3月6日が私の最後の客演指揮の仕事となり、来春までに予定されていたアメリカと日本での指揮者としての招待もすべてキャンセルにな



▲コロナ自粛期間中、ご自宅でトロンボーンの実習に励むクレーマー先生

りました。来秋には日本に戻り、私が30年近く愛してきた武蔵野のウィンドアンサンブルとまた一緒に仕事ができることを期待しています。私はこのコロナの自粛期間中、ずっと吹いていなかったトロンボーンの実習をしてきました。また自分の音楽を作ることに没頭していますが、やはり再び生身の演奏家の前で指揮することを、何より楽しみにしています。

武蔵野の在学生の皆さん、そして卒業生の皆さんには、必ずこのパンデミックは過ぎ去り、通常の活動が再開できるようになると信じ、音楽のキャリアをあきらめないで欲しいと思います。

「誰も戻って新しいスタートを切ることはできないが、誰もが今からスタートして新しい結末を作ることができる」という名言がありますが、今回の世界的な大流行の中で起きたことを変えることは不可能だとはいえ、私たちは明日、新しいこと、創造的な始まりに取り組むことは可能なのです。(2020年8月13日)



COVID-19パンデミック下での ドイツの音楽家

ルドルフ・ピールマイヤー
(指揮者)

3月中旬、新型コロナウイルスはドイツを襲いました。2020年は「コロナウイルス年」として歴史に名を残すことになるでしょう。

完全にロックダウンされた後、州は企業、中小企業、そしてフリーランスのアーティストへの援助金の支払いに迅速に対応しましたが、その後、申請数が増えたため対応が遅れるようになりました。

大きなコンサートは中止され、オペラの上演もオーケストラの編成でソーシャルディスタンスを保つなど、限られた形でしかできませんでした。アーティストへのキャンセル料の支払いは、隣国のフランスでのみ受けられました。フランスでは、こうした制度が法的に定められているためです。料金総額の20%に相当します。また、フランスでは今後予定されているオペラ公演の収益も、アーティ

ストのための特別な制度で保護されています。しかしながらドイツにはこのような保護制度はなく、生活を維持するために農業など別の仕事に就かなければならない芸術家もいます。

こうした状況下でのアーティストの新しい活動の場としてインターネットが注目され、小編成のアンサンブルでのコンサート、室内楽、様々な新しい形式の音楽がオンラインで提供されるようになりました。

8月末にはフランス北西部のルーアンのオペラ座で、私にとって自粛後の最初のオペラ作品となるリヒャルト・ワーグナーの「タンホイザー」が上演されます。フランスでは恐ろしいほどの感染者数の増加が続いており、先行きは不透明ですが、現地の文化人たちは音楽やオペラ、文化的な「生の体験」を再び人々に提供できる



▲自粛後の公演「タンホイザー」のリハーサルでのピールマイヤー先生。譜面台にはマスクが掛けられている

よう、この公演を手本にしたいと考えています。そして、制作の過程をフランス3(テレビチャンネル)やインターネットで生中継することも計画しています。各都市へのこの中継は、大きな広場でも生中継される予定です。長い休止期間を経て、本公演が文化的ハイライトとなってくれることを願っています。

最後に、武蔵野の皆さんが一日も早く普通の日常に戻れることを祈っています。たとえそれが「いつもと違う普通」であっても…。皆さんは、きっとこの危機の中で何か新しいものを発見したに違いありません。来年末、再び皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

(2020年8月11日)



生の音、 ライブ演奏の素晴らしさを再認識

眞塩 直 (テノール/ミラノ・スカラ座合唱団員/
2007年本学卒業、本大学院修士課程修了)

イタリアではローディ県で感染者第一号が確認されてから数日のうちに感染拡大し、2月23日に劇場は封鎖され、結局、そのまま夏休みを迎えました。

3月の初旬より本格的なロックダウンが始まり、生活必需品の買い出しを除く不要な外出が一切できなくなり、普段は交通量の多い通りも車がなく、まるで世界が減じたかのような静けさでした。ロックダウン以降、全ての演奏会は中止になっていましたが7月頃から再開の兆しが見え、スカラ座も突然の封鎖から

4ヵ月以上がたった7月6日にコンサートを再開。しかし、オーケストラや合唱は過密になるため参加できず、3人のソリスト、そして最大600人という普段の3分の1以下の観客で再出発しました。

8月19日現在、減少していた新規感染者が増え始めました。皆気が緩んできており、第二波が来ないことを祈るばかりです。そうでないと私たちはまた舞台に戻ることができません。通常夏休みの期間は、ソリストとして演奏する機会が多いのですが、今年は何もできま

せんでした。スカラ座は9月4日に今回の新型コロナウイルス犠牲者へ捧ぐヴェルディ「レクイエム」をミラノのドゥオーモで演奏する予定です。

イタリアでは音楽家に対する特別な支援はありませんでした。フリーランスの劇場関係者は2月の後半から一切の仕事がなく、支援もほぼない状態。政府令で劇場が封鎖され、支援もなしとなれば音楽家は職業として成り立たず、音楽家を志す者はいなくなり芸術は減ってしまいます。この中で、音楽家が暮らしたためや表現をする場所として広がりを見せるオンラインレッスン、オンライン演奏会には新たな可能性を感じます。

コロナが収束した後にしたいことは、やはり今まで通りに舞台に立つ、普通に客席に座り音楽を聴く、でしょうか。



▲7月に再開されたスカラ座のコンサート。観客同士の間隔を取るために座席を制限。今後数ヵ月は、オペラ公演も演奏会形式での上演が続く

今後はオンライン演奏会の配信、VRを使った新感覚の演奏を体験することができると思います。しかし、それはあくまで疑似体験。やはり演奏会に足を運

び、実際に経験したときにしか味わえない感覚があるはずです。7月にスカラ座が再開した際、私は観客として劇場に行きましたが、音楽を愛する人にとってラ

イブ演奏は必要不可欠な物だと再認識しました。

武蔵野の皆さんも今は外出ができず我慢の時だと思いますが、この問題が収束した暁には是非外に出てください。演奏会、旅行、行ったことのない近くの街、家の周りの散歩からも新しい発見があるかもしれません。感性を研ぎ澄ませ、良い物をたくさん吸収してください。経験を通して持った感覚は、あなたの演奏を豊かにするでしょう。

(2020年8月19日)



人と文化を大切にする 国の姿勢に感動

後藤博亮 (チェコ国立ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団
第一ヴァイオリン奏者 / 2011年本学卒業)

チェコでは3月12日に緊急事態宣言が発令され、同日の14時から全てのコンサートや集会が禁止になりました。その後国境が封鎖され、国内での行動も制限されました。一番辛かったのは、遠く離れた家族に会いに行けなくなったこと。そのストレスを発散するため、日中はランニングをしたり、散歩をしたりしました。時間ができた分、夜はオンラインでコンサートやオペラを存分に楽しみ、武蔵野在学中は毎日4～5時間ほどやっていた基礎練習も再開し、今の自分に合ったプレイスタイルを見つめ直す貴重な時間になりました。

私の所属しているオーケストラは、3ヵ月コンサートがありませんでしたが、外国人である私でもオーケストラに勤める“音楽家”として100%の保障を国から受けることができました。これは国立音楽学校にピアノ講師として勤めている妻も同様で、この国の「徹底的に人間を大切に、加えて文化を大切に」という心意気に、とても感動しました。

チェコでは6月半ばから500人までのコンサートは許可されましたが、観客

には屋内でのマスク着用義務があります。演奏も野外コンサートや1.5mの距離を保ったスタジオ録音から再開。7月は休暇、8月9日からはブルノの音楽祭とともに再開予定です。今シーズンで中止になったいくつかのプログラムは来シーズンへ持ち越しの予定で、来年は忙しくなりそうです。

コロナが収束したら、安心して日本に帰りたいです。そして大学卒業以来9年にわたり地元福山市に一流の音楽家を招待し、弦楽合奏やリサイタルなどで盛り上げてきましたので、これらを是非再開したいです。またブルノ・フィルのメンバーと組んだ弦楽トリオのCDと共に、胸を張って故郷の地を踏みたいです。

後輩の皆さんにお願いしたいのは、コロナ禍が明けたら休みを利用するなどして小さなコンサートを行い、是非ご自身の故郷を盛り上げて頂きたいです。今世界は病気にかかっている状況です。しかしこのような時だからこそ、音楽は“癒し”を人に与えられます。まずは身近なご家族を、続いて友達、そしてお世話になった方々を幸せに、と繋



▲自粛後初のコンサート(6月18日)。舞台上とバルコニーをお客様の席とし、オーケストラは椅子を取り除いた客席で演奏した

げていくことが、本来音楽家のあるべき姿だと思います。

私の師匠のミハリツァ先生は、昨年10月に武蔵野で行われたマスタークラスで、「音楽は心や魂にとって、大切な“食べ物”のようなもの。芸術作品はあくまでも味わいや香りであって、お客様の心まで届いて初めて、栄養やエネルギー源になる」と演奏を料理に例えられました。みなさんのかけがえのない学生生活は、将来、周りの人に極上の心の栄養を提供するための修行期間だと思います。純粋な音楽への気持ちをずっと持ち続けてください。

(2020年7月17日)

武蔵野を支える人々

「警備員」



武蔵野音楽学園の快適な学修環境を実現するため、キャンパス内では日々大勢の方々が働いておられます。今回ご紹介するのは、学生・生徒の皆さんが安心してキャンパスライフを過ごせるよう、エントランスを始め、構内の至るところに目を光らせてくださっている株式会社アーバンセキュリティ (ALSOKグループ) の警備員の方々。コロナ禍の大変な状況のなか、警備一筋30年の東岡利美雄さん、黄田裕一さんのお二人にお話を伺いました。

安全と安心を武蔵野のために

—— 最初に、江古田キャンパスの警備体制についてご説明ください。

東岡 6名のスタッフでローテーションを組み、昼間3名、夜間2名、24時間体制で警備にあたっています。基本は入口での入構者の監視、受付での入構者への対応、定期的な構内の巡回、監視カメラのモニターのチェックなどです。防犯に加え、防災や緊急時の応急手当てなどにもあたります。上級救命の資格を持つ者もいますし、AEDの使用法は全員が身につけています。

—— キャンパスを警備する上で、どういった点を重視していますか？

黄田 やはり重視しているのは人の出入り。入構して良い人なのかどうか、学生さんでもある程度年齢の行った方、そしてあまりお見かけしない非常勤の方、そのあたりの見極めに注意しています。

東岡 積極的に声掛けをしています。警備員の挨拶にはセキュリティの意味もあり、「私はあなたを見ていますよ」というメッセージが含まれているわけです。

—— 警備という仕事についての経緯、また仕事のやり甲斐をお聞かせください。

東岡 私は先に入社していた兄の勧めで総合警備保障株式会社 (ALSOK) に入り、以来30年ほどになります。現在の常駐警備で言えば、「ありがとう」「ご苦労さま」と声を掛けていただくだけで、嬉しく、また頑張ろうという気持ちになりますね。

黄田 皆さんの安全に多少なりとも寄与できている、そう思うことがやり甲斐につながっています。これからも、



▲ 左から黄田さん、東岡さん、三宅さん

武蔵野のために頑張るつもりです。

—— 仕事柄、危険な目にあったこともあるのではないのでしょうか？

東岡 武蔵野では不審者への対応程度で、危ない場面には遭遇していません。ただ、かつて外部で警備輸送を担当していたとき、現金を運んでいた同僚が拳銃を持った強盗に襲われて撃たれたことがあります。警察官ではありませんが、やはり危険と背中合わせの部分がありますね。ちなみに、そのときの犯人は逮捕されましたし、撃たれた同僚も幸い命には別状なく今も元気に働いています。

—— 実際に現場で警備の仕事をする方は、体育会系の方が多いのでしょうか？

東岡 体育会系出身者ばかりではありませんが、当社には柔道部と剣道部があり、学生時代に柔道をやっていた者はけっこういます。

—— 東岡さんご自身は？

東岡 私はずっと空手をやっており、今でも週に2、3回は稽古に通い、試合にも出ています。自慢になりますが、かつて実業団の大会で東日本3位になったことがあります。3位というのは微妙ですが(笑)。空手をやっているせいか、ちょっと変な人が来ても怖いと思うことはないですね。「来るなら来い!」という感じですか。

—— コロナ禍において、警備する上で変わったことはありますか？

黄田 このところは、入口で職員



▲ 東岡さん(左)と黄田さん(右)。コロナ感染予防のため、取材はマスク着用で行いました

の方が入構目的やマスク着用等のチェックをされている関係で、不審な人の入構が未然に抑えられている印象があります。

束岡 密閉・密集・密接に関しては常に注意を払っており、気になれば学生さんにも声を掛けています。ただ一番気をつけているのは、自分自身がコロナに感染しないということ。人と接する仕事ですので、もし私が感染して人に移してしまったら大変ですから。

—— 武蔵野の学生の印象は？

黄田 朝や帰り際に挨拶をしたり、受付のところで言葉を交わしたりする中で感じるのは、どなたも非常に性格の良い子だなということ。すくすく育っている感じがします。

束岡 みんな明るく、楽しそうですね。羨ましくなるくらい。たぶん、皆さんきちんとした目的があつて来ているからなのでしょう。

—— 最後に、武蔵野の学生へのメッセージをお願いします。

束岡 今はコロナ禍で退構時間も早まっていますが、通常だと夜の10時頃まで大学にいらっしゃる方がいます。帰りに夜道を歩く際、くれぐれも気をつけてください。ヘッドホン、イヤホンを付けたままでの歩行にもご注意ください。

黄田 学生時代というのは、生涯つづく良い友達をいっぱい作る時期だと思います。友達との関係を大切にしてください。

他の警備員の皆さんからも一言いただきました

遠藤将志さん 話したことのない学生さんから突然話しかけられたことがあります。後でわかったのですが、本番前で緊張していたのが私と話すことでほぐれたと聞いて嬉しくなりました。余談ですが、こちらに勤務するようになってクラシック音楽を聴くようになりました。

大塚昌樹さん 何事も起こらず一日を終えられたとき、心の底からホッとします。武蔵野の学生の印象は、素直で明るい子が多いように見受けられます。卒業してもその素直さ、明るさを失わないでください。

東章さん 学生の皆さんが、毎日門限ぎりぎりまで熱心に練習している姿に感心しています。時間が来て退構をお願いするとき、申し訳ない気持ちになることがあります。

三宅啓介さん 警備とはいえ、こわもてでは恐怖心を与えてしまうので、できるだけ笑顔で接するよう心がけています。今後も皆さんがひたむきに勉学に励んでいただけるよう、安心・安全な環境を提供します！



▲左から東さん、大塚さん、遠藤さん

音楽の万華鏡 ⑤

音楽用語はイタリア語

西洋音楽の用語にはイタリア語が多い。音の強弱を示すのに用いる piano や forte、音の速度を示す allegro や andante、あるいは dolce や animato といった発想標語など、いくらでも例を挙げることができる。それは、今、世界で広く聴かれている西洋音楽の基本の様式が17世紀から18世紀にかけてイタリアで作られたからである。

こうした言葉は、イタリアでは特に音楽用語としてのみ使われているわけではなく、人々の日常の中で用いられる言葉が、音楽に転用されたものである。たとえば、フェルマータは fermare (止まる) の過去分詞形、

アンダンテは andare (行く) の現在分詞形である。イタリアに旅行すると、日常会話の中に、耳慣れた音楽用語がたくさん出てきて、びっくりしたという経験をお持ちの方もいるのではないだろうか。

このように、ある音楽が他の地域に伝播するとき、その音楽様式が生まれ育った土地の言葉が音楽用語となつて一緒に伝わる人が多い。西アジアの音楽文化の基礎が作られたのはササン朝ペルシャであるが、それを受け継いだアラブ諸国やトルコの古典音楽では、今でもペルシャ語由来の音楽用語が用いられている。

日本の伝統音楽の場合は、中国の音楽文化の影響を大きく受けたので、音楽用語には、中国語が多くみられる。たとえば、調子、拍子、十二律(絶対音高名)、五声(階名)などがそうである。近代になって西洋音楽が日本に伝来したときに、こうした用語を西洋音楽の用語の訳語として使うこともしばし

ばあったので、これらの用語は私たちにも馴染みが深い。たとえば、半音下げる記号を「変」記号と呼ぶのも、中国由来の音楽理論用語を西洋音楽に転用したものである。

しかし、日本の伝統音楽では、外来語だけでなく、日本語を音楽用語として用いる例もたくさんある。リズムに関わる「捨う」「持つ」「乗る」、音高に関わる「上る」「下る」「張る」「減る」、旋律の動きに関わる「揺る」「回す」「引く」、声の技巧に関わる「当たる」「据える」「色」等々。こうして列挙してみると、イタリアの音楽用語同様、どれも日常的な言葉を音楽に転用したものだということに気づかされる。

音楽用語からは、音をめぐる様々な事象を人々がどのようにとらえているかということはもちろん、その音楽の成り立ちや歴史までもが見えて来るのである。

薦田治子 (本学音楽学教授)

ニュー・ストリーム・コンサート開催

去る6月29日、30日、「ニュー・ストリーム・コンサート Vol.39・40 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～」が本学プラームスホールにて開催され、演奏学科ヴィルトゥ

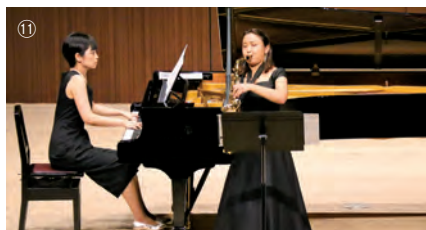
オーゾコースに在籍している優秀な学生が、演奏を披露しました。

コロナ禍で、対面でのレッスン再開から3週間足らずという厳しい状況にも拘わ

らず、出演者は研鑽の成果を立派に発揮しました。入場者を関係者のみにし、座席数も限定しての開催でしたが、多くの学生、教職員が来場し温かい拍手を送りました。またこのコンサートで、本年3月に納入されたスタインウェイのフルコンサートグランドピアノが、お披露目されました。



ニュー・ストリーム・コンサート Vol.39 ①入岡美澗 (大学2年/ピアノ) ②新城智史 (大学3年/フルート) ③菊地章太郎 (大学3年/クラリネット) ④大野凜 (大学3年/ピアノ) ⑤佐藤和鷹 (大学4年/オーボエ) ⑥高見澤桃香 (大学4年/ピアノ)



ニュー・ストリーム・コンサート Vol.40 ⑦清水あかり (大学2年/ピアノ) ⑧松本瑠海 (大学3年/ソプラノ) ⑨飯島七海 (大学4年/クラリネット) ⑩高橋七海 (大学3年/ピアノ) ⑪中島美紅 (大学4年/サクソフォン) ⑫石田詩葉 (大学4年/ピアノ)

令和元年度 大学院博士後期課程学位記授与式

去る7月17日、令和元年度 武蔵野音楽大学大学院博士後期課程の学位記授与式が、本学モーツァルトホールで執り行われ、児玉瑞穂さんに「博士(音楽学)」の称号が授与されました。

論文テーマ「ドレスデン及びライプツィヒを中心とする初期多鍵式フ

ルート —18世紀後半から19世紀初頭までのフルート文化の拡がり—」における研究成果が高く評価されました。

今後、これまで培われてきた高度な知識と専門性を活かして、様々な分野での活躍が期待されます。

▶ 児玉さん(左)と福井学長





本学【公式】ネームキーホルダが発売になります!!

武蔵野音楽大学【公式】ネームキーホルダは、大学に集う学生同士、学生と教員、大学と社会の「融合」、「調和」をますます活性化させるアイテムとして、キャラクターイベントやグッズのプランニング会社、デコランド株式会社によりプロデュースされました。武蔵野音楽大学がこれまで築き上げてきた「伝統」と、さらなる飛躍を目指すこれからの「未来」。両者への思いを込めてデザインされたネームキーホルダを、武蔵野音楽

大学の学生、教職員、卒業生すべての方の手に取っていただければと思います。

完全セミオーダーメイドの公式ネームキーホルダは、2つの形状タイプ(スティック・タイプ/ティアドロップ・タイプ)があり、指定した名前や文字を入れることができます。革製の鞆やご自宅の鍵等に付けてもファッション性を損なわない気品ある



色味とデザインになっており、ご自分用にはもちろん、お友達・ご学友への贈り物としてや、お揃いで仲間との一体感を共有するアイテムとしても、是非おすすめいたします。販売価格は1,500円(税別)で、郵送料は無料です。



スティック・タイプ
(70mm×15mm)

素材は、高級感のある透明アクリル樹脂製。スクールカラーである紫色が光に当たると美しく輝く、気品と風格あふれる逸品です。



ティアドロップ・タイプ
(40mm×30mm)

手にも馴染みやすいサイズ感で、背景色が薄っすら透けて見え、洗練された風格があります。

商品の詳細や購入方法につきましては右記QRコードを読み取っていただくか、または下記URLより、デコランド株式会社Webサイトにてご確認ください。



◆デコランド株式会社
公式Webサイト キャラ&ネーム
<https://www.charaname.com/>

栄冠おめでとう! (コンクール入賞者等)

- 2020年第4回ケベック音楽コンクール 国際オンラインコンクール(カナダ) (順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)
プロフェッショナル・ソロ部門 第1位入賞 谷口万穂子(平成24年大学声楽専攻卒業)
 - 2020年第6回ロンドンランドプライズヴィルトゥオーゾ国際音楽コンクール(イギリス)
シニア部門 第1位入賞 谷口万穂子(平成24年大学声楽専攻卒業)
 - SAKURA JAPAN MUSIC COMPETITION 2020 ピアノ部門一般の部 第1位入賞 平林咲子(平成31年大学ピアノ専攻卒業、本大学院1年)、●第28回ブルクハルト国際音楽コンクール 弦楽器部門 第1位入賞 小川紗果(大学1年ヴァイオリン専攻)、●第3回WPTAピアノオーディション Web審査部門 ピアノソロ 大学の部 優良賞受賞 後藤光希(大学4年ピアノ専攻)、●第11回ジュラ・キシュ国際ピアノコンクール 高校生部門 第1位入賞(新型コロナウイルスの影響により延期して開催) 石川千夏(大学1年ピアノ専攻、附属高校卒業)
- ※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

2020年度 冬期講習会のお知らせ

講習会名	期間	申し込み期間	会場
音楽大学受験講習会	2020年12月24日(※)~27日(◎)	2020年11月25日(※)~12月9日(◎)	江古田キャンパス
高校受験講習会	2020年12月25日(◎)~27日(◎)	2020年11月25日(※)~12月9日(◎)	

※詳細は要項でご確認ください。講習会要項は、本学ウェブサイトからお申込みいただくか、本学広報室(TEL.03-3992-1125)へお電話にてご請求ください。
本学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

2021年度 入学試験要項ならびに各種資料の請求について

各入学試験要項(附属高等学校、大学1年次、大学3年次編・転入、大学院、別科)ならびに武蔵野音楽大学や附属高等学校等、各種資料のご請求は、本学ウェブサイト内の「資料請求フォーム」をご利用いただくか、広報室までご連絡ください。

なお、受験講習会受講者でご希望の方には、講習会期間中に入学試験要項を配付します。



各種資料請求先	武蔵野音楽大学 広報室 TEL.03-3992-1125	本学ウェブサイト http://www.musashino-music.ac.jp/
---------	------------------------------	--

武蔵野音楽学園創立90周年記念寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。 学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名(五十音順)は、令和2年4月1日から7月15日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。

また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

【同窓生】 板倉みのり様 大塚由季様 河野由美様 戸田美樹子様 林 秀樹様 林 裕美子様 同窓会岡山県支部様 同窓会長野県支部東信地区様

【役員・教職員・一般・他】 阿久津三智子様 大槻恵司様 岡野壽子様 奥田 操様 加藤由紀子様 清野美佐緒様 佐伯真弥子様 耕 修二様 田代愼之介様 野村邦武様 久富綏子様 福井直敬様 宮岡千栄子様 (他に匿名を希望される方4名)

2020年度 10月～12月 演奏会のお知らせ

入間市「市民コンサート」 管弦楽団演奏会 10月10日(土) 14:00 パッハザール(入間) 無料(全席指定)
主催=入間市立中央公民館 ※入場は関係者に限定されます。

指揮=時任康文 オーボエ独奏=佐藤和鷹(演奏学科ヴィルトゥオーゾコース4年)

曲目=シュトラウス2世:喜歌劇《こうもり》序曲、モーツァルト:オーボエ協奏曲 長調 K.314、チャイコフスキー:交響曲 第4番 短調 Op.36

ニュー・ストリーム・コンサート41 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～

11月18日(水) 19:00 トッパンホール ￥1,500(全席自由)

出演=松田晏菜(2年/Sop.)、曾田 響(2年/Pf.)、島 敬祐(4年/Ten.)、目黒遙菜(2年/Pf.)、斎藤佳音(4年/Sax.)、岸 明日香(4年/Pf.)

管弦楽団演奏会 11月23日(月) 18:00 ベートーヴェンホール(江古田) ￥1,500(全席自由)

指揮=北原幸男 12月 2日(水) 18:30 東京芸術劇場 コンサートホール ￥1,500(全席指定)

ピアノ独奏=茂木孔亮(演奏学科ヴィルトゥオーゾコース3年)[11/23]、目黒遙菜(演奏学科ヴィルトゥオーゾコース2年)[12/2]

曲目=R.シュトラウス:交響詩《ドン・ファン》Op.20、シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 Op.54、ブラームス:交響曲 第2番 二長調 Op.73

ウィンドアンサンブル演奏会 12月 8日(火) 18:30 東京芸術劇場 コンサートホール ￥1,500(全席指定)

指揮=武田 晃

曲目=C.ウィリアムズ:交響組曲、チェザリーニ:交響詩《アルプスの詩》 他

室内合唱団演奏会 12月11日(金) 19:00 ベートーヴェンホール(江古田) ￥1,000(全席自由)

指揮=栗山文昭、片山みゆき ピアノ=齋藤誠二、川瀬紗綾

曲目=グレゴリオ聖歌、J.デ・プレ:ミサ《パンジェ・リングア》より《クリエ》、《グローリア》、ブラームス:愛の歌 Op.52 他

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のために演奏会の開催が延期または中止となる場合がありますので、本学ウェブサイトでご確認ください。

※チケットは本学ウェブサイトでもご予約ができます。

●お問合せ 武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

2020年度 オープンキャンパス・学校説明会 & 体験レッスン

2020年度の《オープンキャンパス》《学校説明会&体験レッスン》を下記の日程で開催します。ぜひご参加ください。

◎オープンキャンパス [会場:武蔵野音楽大学 江古田キャンパス]

開催日	主な実施内容
11月29日(土)★	大学案内、体験レッスン、保護者説明会、学生によるコンサート
2021年 3月28日(土)★	大学案内、体験レッスン、体験授業、保護者説明会、キャンパスツアー

◎学校説明会 & 体験レッスン

開催日	開催地
10月 4日(土)	北海道旭川市
10月11日(日)	東京都多摩市
10月17日(土)	沖縄県那覇市
10月18日(日)	鹿児島県鹿児島市

※今後の状況により中止または内容が変更になる場合があります。

※事前申し込みが必要です。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。

※★印のついた開催日は附属高等学校の説明会も実施します。

お問合せ	武蔵野音楽大学 入学センター TEL.03-3992-2500	E-mail: nyugaku-c@musashino-music.ac.jp
------	---------------------------------	--

2020年度 中高生のためのステップ・アップ・プログラム

初心者の方から上級者の方まで、ピアノや歌が上手になりたい!という中高生の皆さん、音楽大学という理想的な音楽環境で、一流講師陣によるレッスンに参加し、スキルアップに役立ててください。



種別	開催日	会場
ピアノ・声楽	11月1日(日)	江古田キャンパス

お問合せ	武蔵野音楽大学 入学センター TEL.03-3992-2500 E-mail: nyugaku-c@musashino-music.ac.jp
------	---

敵

韓国 全長103cm

どこかユーモラスな雰囲気さえ漂わせて横たわる姿はまるで大型の置物のようで、見る者に強烈なインパクトを与えるが、これも楽器である。敵は古代中国で誕生した体鳴楽器で歴代の宮廷雅楽に用いられてきた。

現存する雅楽としては、韓国ソウル特別市にある朝鮮王朝(1392～1897)歴代の王や王妃が祀られている宗廟において、毎年行われる王朝時代の儀礼祭礼の中で、敵を見ることができる。朝鮮半島に雅楽が伝来した時期は高麗朝(918～1392)と古いが、朝鮮王朝時代、中国伝来の雅楽に朝鮮固有の音楽の要素が融合して、新たな独自の宗廟祭礼楽が確立された。それ以来、時代とともに変化を見せながらも今日まで継承されている。奏者は、曲の終わりに虎の頭を3回打った後、背中の凹凸部分を木櫟という竹製のささらで摺って音を出す。

さらに、この楽器のユニークな外見には、中国独自の世界観が反映されていると考えられる。もともと古代中国では、龍、朱雀、虎、玄武の四神に、陰陽五行の思想が加わって、それぞれ方位、色、季節などと結合した独自の世界観が形成されていた。一般に、東の青龍、南の朱雀、西の白虎、北の玄武(五行に合わせ、これに中央の麒麟を加えることがある)で知られるように、白虎を模った敵は「西」「白」「秋」と結びつき、西の神として西向きに置かれ、曲の終止(秋を意味する)を知らせる役目を担っている。そして、曲の開始(春を意味する)



を担う「祝」とよばれる箱型の楽器とともに用いられるのである。

毎年5月の第1日曜日、伝統装束に身を包んだ楽師や舞人たちによって、壮大な歴史絵巻が繰り広げられる宗廟祭礼楽は、2001年ユネスコ世界無形文化遺産に登録された。かつての王朝儀礼は、今日では民族の誇る世界文化遺産として、伝統を守りながら大切に受け継がれている。(武蔵野音楽大学楽器ミュージアム所蔵)

❖目次❖

- 特別対談 芸術の生命と伝承 ①
坂東玉三郎 福井直昭
- 海外音楽事情 ⑦
コロナ禍の世界と音楽家
- 武蔵野を支える人々 ⑩
警備員
- 音楽の万華鏡 ⑪
音楽用語はイタリア語 薦田治子
- MUSASHINO NEWS ⑫
- ❖ニュー・ストリーム・コンサート開催
- ❖令和元年度 大学院博士後期課程学位記授与式
- ❖本学【公式】ネームキーホルダが発売になります!!
- ❖栄冠おめでとう!(コンクール入賞者等)
- ❖2020年度 冬期講習会のお知らせ
- ❖2021年度 入学試験要項ならびに各種資料の請求について
- ❖武蔵野音楽学園創立90周年記念寄附金 ご寄附をいただいた方々
- ❖2020年度 10月～12月 演奏会のお知らせ
- ❖2020年度 オープンキャンパス・学校説明会&体験レッスン
- ❖2020年度 中高生のためのステップ・アップ・プログラム

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖発行❖

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)

バルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>    

2020年10月1日発行 通巻第135号